

## 佐事研だより


 佐賀県公立小中学校事務研究会  
 編集発行人 小川 洋起

## 会 員 各 位

会員の皆様、先月の第20回研究大会お疲れ様でした。梅雨に入りジメジメとした日が続きますが、この季節をものともしない子供たちの元気さに改めて頑張らなければと思う今日この頃です。

今年度の「佐事研だより」の記事担当は、46号より（佐賀市・小城市）、（鳥栖基山・神埼）、（唐津地区・杵島）、（武雄市・伊万里西松浦・藤津鹿島）です。その他については調査広報部長にて行う予定です。よろしくお願ひします。

## 第20回 大会アンケート集計結果

大会アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございます。長年の研究を踏まえた藤原様の講演や各地区の共同実施のあり方などについて多くの感想やご意見を頂きました。前回大会に比べてアンケートの回収率がやや低かったようです。次回大会のおりには、よりアンケートにご協力をお願いします。

## 第20回大会アンケート集計表

年代	20代	
	藤原様講演	パネルディスカッション
回答		
大変良かった	7	0
良かった	6	6
普通	0	5
良くなかった	0	0

年代	30代	
	藤原様講演	パネルディスカッション
回答		
大変良かった	9	0
良かった	7	12
普通	2	6
良くなかった	0	0

年代	40代	
	藤原様講演	パネルディスカッション
回答		
大変良かった	14	2
良かった	10	13
普通	2	8
良くなかった	0	3

年代	50代	
	藤原様講演	パネルディスカッション
回答		
大変良かった	10	3
良かった	6	8
普通	1	3
良くなかった	0	1

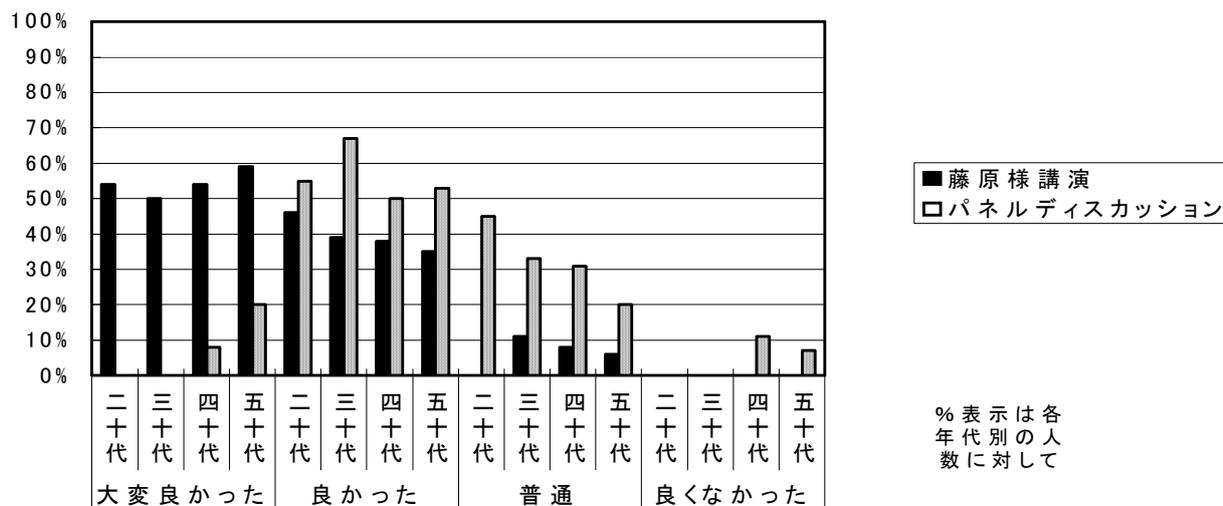
年代	合 計	
	藤原様講演	パネルディスカッション
回答		
大変良かった	40	5
良かった	29	39
普通	5	22
良くなかった	0	4

アンケート提出数	74
内数(県内)	74
内数(県外)	0

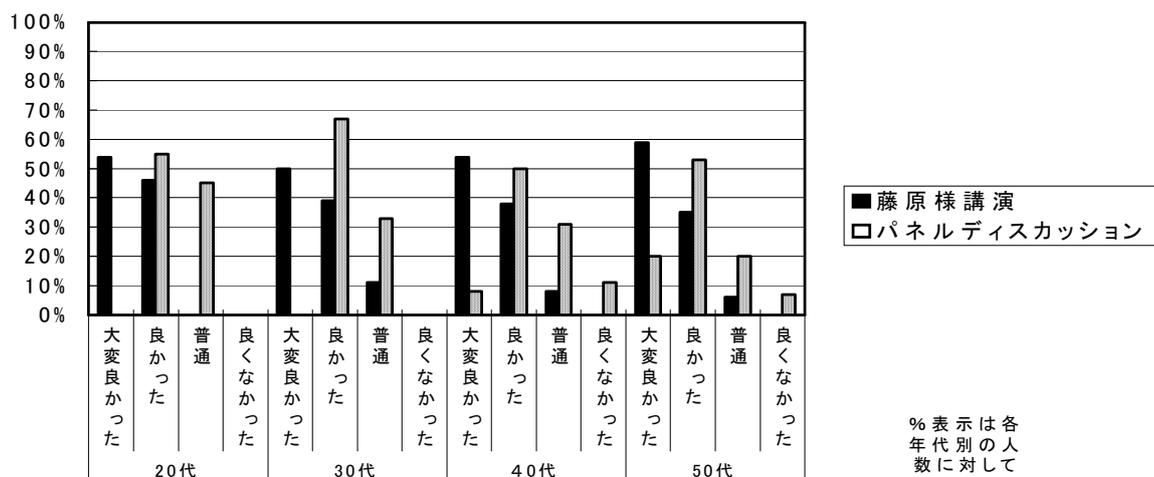
(一部無回答有)

参加者数	229
内数(県内)	218
内数(県外)	11
回収率	32.30%

### 第20回大会アンケート結果（回答別）



### 第20回大会アンケート結果（年代別）



以下は、大会アンケートのコメント欄です。

◎ 藤原様講演

20代：お話の中で何度も共感をおぼえる所があり、興味深くきくことが出来ました。日頃より、地域に対してどの様にアピール出来るのか模索中ですが、学校外に学校事務という仕事を評価してもらうことは大切だと思います。

20代：勉強になりました。

20代：大変面白く、明確な話だったと思います。他県との比較データも豊富で勉強になったと思います。根本的な教育行政の目的やその具体的な話の流れは、分かりやすく、面白いです。

20代：学校事務職員の職務について、仕事の内容よりも精神的な面から論じられていて大変参考になりました。また、勇気付けられました。

20代：今までに見えていなかった事務職員の背景を知ることができて、大変良かったと思います。

- 20代：「事務職員は置かれている状況が厳しい」という話はよく聞いていたが、具体的かつ専門的な意見は目にしたことがなかったため、非常に勉強になった。こういった内容を共同実施等で実現していけたら良いと感じた。
- 30代：明確な方向性を示してもらったような思いです
- 30代：わかりやすく、とても参考になりました。何かと大変な事も多く、忙しくもありますが、共同実施、がんばります。
- 30代：他県の事例も聞けて大変良かったです。事務職員としての心構え（3つ）を常に意識して職務に取り組みたいと思います。
- 30代：言葉が大変分かりやすかった。
- 30代：今後仕事をしていく上で、参考になることが多かったです。
- 30代：教育サービスと情報管理をコアに学校事務の職務を充実させること、職務上周囲への承認欲求（ほめ合うことも大切）を満たすことも、大切に思いました。共同実施は単数配置の事務職員の疎外感を、開放する場でもあるので大切なグループワーキングということも納得しました。
- 30代：IT（情報）と財務と法規に関するレベルアップは、どうあっても必要と何度も言われましたので、どうにかして（基礎から）確実に身につくよう研修を組めるか、考えないと…。しかし、何故か効率化されているはずの通常業務に追われている毎日。地区にもよると思うが、会計作業や調査関係、市町村合併によるシワ寄せ等、細々とした業務が、増えていると感じる。市町村の違いと言ってしまえばそれまでだが。
- 40代：昨年大阪事ム研で既に聞いた○（1文字不明）
- 40代：情報、財務、法規の領域を高める＝職としての信頼性が高まる等重点をおいて話されたのでわかりやすい講義だった。学校事務の役わりは最終的に教育としての行政サービスがどこまでできるのかという大きなテーマに向っていくのだと実感した。
- 40代：痛いところを指摘されました。ITに、法規、一自分の苦手分野の力をつけないといけないということで、十分に反省しました。こちらを克服してからの自己アピールへ移らないといけないと思いました。
- 40代：課題、展望等の話が具体的に聞けてためになりました。相対的に自分の仕事が教育行政サービスに貢献しているのか検証しながら進めていきたい。
- 40代：現場の声や情報を理解している研究者の講演は初めてだったよう気がした。情報、法規、財務の専門性を重視する方向性は納得する。
- 40代：忘れかけていた「仕事の満足度」について再認識しました。元気をもらう内容で良かったです。
- 40代：学校の唯一の行政職であると認識しつつも、本当に法規・財務・ITに精通しているのか？との問いかけは痛烈でした。年次計画をたてて、研修すべき専門分野でしょうが、はたしてそれは佐事研で実現可能でしょうか…と考えますが、センター研みたいなものがあれば…
- 40代：共同実施についての考え方を事務職員の職の成り立ち、事務職員自身の実態や外からの見え方などから示していただき、非常に参考になりました。特に（地域にこだわらない）経験による区切り、というところはなるほど、と思いました。
- 40代：分かり易く今後の方向性が良くわかった。
- 40代：事務職員の専門的知識（財務・情報・法規）を深め教育活動に関する知識をつけることが大事だと改めて思いました。法規は私は苦手ですががんばって勉強しようと思います。共感できる場所が多く良い講義だったと思います。
- 40代：自分たちの持ち味（学校の中での唯一の行政職）と弱点（単数配置における閉鎖性他）を理解して応援団（教員、地域、保護者）を創り、楽しく仕事をしたいと思う。
- 50代：自分の中事務職員像は何なのか、再考させられた
- 50代：わかり易く話され、参考になった。

- 50代：2年振りの外部講師の講演だったが非常にわかりやすく特に、3本の柱を立てての淀みない流れるような話し振りでした。得る所大と感じ、残り少なくなった学校事務に活かしていきたい。
- 50代：これからの事務の共同実施に光（指針）が見えてきたかな。
- 50代：共同実施の概念が変わりつつあることを再認識できた。
- 50代：明日への大きなヒントがつかめました。
- 50代：共同実施のイメージがわかりやすかった。
- 50代：5年間学校現場を見学し、調査研究されていたので、学校事務について詳しく理解されていた。又、今後についての展望の示唆を与えてもらいました。
- 50代：今までの講演とは少し違った内容だったと思います。将来に向けて具体的な提言がなされたと思います。
- 50代：孤独と責任、やりがいの狭間の事務職員をユーモアを交えて愛をもって応援していらっしゃる先生のお話がうれしかった。

#### ◎ パネルディスカッション

- 20代：共同実施は正直言うと、内容というより効果、結果が気になります。共同実施をしてその後どういう方向にむかうのか、私自身ビジョンが浮かばないので、乗り気になりません。事例でもいいので、大まかな今後のビジョンを具体的に知りたいです。
- 20代：色んな学校の共同実施のやり方が聞けてよかった。
- 20代：まずは、パネラー全員が、テーマについてお話をされてから、話を進めていただきたく思います。教職員課主幹様のお話を聞いてからのほうが、より多くの視点からの意見によって話が深まってきたはずだと、大変残念でした。
- 20代：私自身、共同実施に参加したことがないので共同実施がどういうものが想像しにくいですが、今回、いろいろな地区の意見が聞けてとても勉強になりました。
- 20代：実際どういった方向で共同実施を行っていくのか、まだまだ模索中なのだなと思いました。実施をする上では、各々の学校環境を配慮すると、なかなか難しいものであって、そういった細かい部分をつめていく段階をしっかりふんでいかなければならない。その段階では、やはり様々な意見が飛び交うことになる。すると、うまく話がまとまっていくのはなかなか難しいものだなと感じました。
- 20代：昨年の具体的な報告があり、今後の展望が立てやすくなったという点では意味があったと思うが、パネラー・会場共に具体的な将来像が全く語られなかったのが残念である。
- 30代：伊万里地区の状況は初めて聞くものでちょっと意外でした。
- 30代：県内全域への共同実施の推進について、具体的な話しが聞きたかったです。
- 30代：共同実施による学校事務職員のアピールは難しそうだと思います。
- 30代：教職員課の方の話もきけてよかった
- 30代：共同実施で小規模拠点校、加配無のグループに存在します。3年目ですが、メンバーそれぞれの悩みを声かけ合いながら意見を述べる機会ではありますが、経験年数や職種の違いがギャップに感じられる今日、この頃です。
- 30代：県教委が、今、共同実施に求めている事は（何となく）語られた気がしましたが、学校に保護者や地域が求めている事って何だろう？と思います。県教委や地教委が学校に求めている事は、それと同じ？なのでしょうか。説明義務があるし、自分達がやってる事を広く伝える事は大事！！だとずっと言われてきましたが、その為に必要なのは何か、共同実施を行っていく事が、答えになるよう、頑張りたいです。
- 40代：小城・嘉村事ム長の発想は良かったし、白仁田パネラーの共同実施による教○の学校事ム○○による効果の○ケンショウが必要との意見には賛成。（○は文字不明）
- 40代：県教委からも参加していただき、県としての方向性や文科省の求める共同実施の効果について話を聞くことができて良かった。
- 40代：県教委から、来られて、コメントされたが貴重な経験となりました。

- 40代：共同実施について総論は賛成だが、各論において、なるほどと言える実践例に出会えないし、自身も発想がない中、一歩がふみ出せない。
- 40代：峯事務長の発言、おもしろかったです。白仁田主幹の話が聞けたことは、良かったです。
- 40代：・白仁田主幹が参加されていた点が良かった。・実施している地区が多いのに、会場からあまり、意見が出なかったのが、残念だった。
- 40代：共同実施についての高尚な発言が多くて気後れしてりますが、市町村合併に伴う、業務の平準化の為の情報交換及び情報の共有も、重要な要因ではないかと考えます。
- 40代：小城市南部地区共同実施の「共同実施＝事務処理の効率化」という発想と「共同実施＝教員の支援という発想を捨てるという発想はすばらしい。私も地区で少数派になりながら以前から、言い続けてきたことです。
- 40代：実践のほうはあまり変わり映えしませんでした。教職員課白仁田主幹さんのお話は興味深かったです。
- 40代：論点もはっきりせず、何がしたいのかさっぱりわからないパネルディスカッションでした。もう少し事前に論点整理をしたり、打合せをきちんとした方が良いと思います。やはり事務職員の弱点である、段取りの悪さ（チェックの甘さ）が表出してしまいました。
- 40代：共同実施の目的・方向性の変革が小城市の共同実施報告で示されたのではないだろうか
- 40代：共同実施の考え方はいろいろあると思うが、最終的には小城市の考え方のように学校経営の見直しにつながっていくべきだと思う（あくまでも学校事務の効率化は大前提として）
- 40代：「共同実施」について早い地区では、6年半ぐらい前から行われていたが、嘉村さんが提起された今までのコンセプトの見直しという意見に新鮮さを感じた。そろそろ、次の段階に進む時期がきているのではないと思う。
- 50代：やはり拠点校の事務職員は大変ですよ。負担になります。自校をしっかりと見てくれる加配を。
- 50代：ポイントがハッキリしていなかったので話が盛り上がらないように思った。
- 50代：パネラー・会場会員の発言、双方共良かった。白仁田主幹の説明もていねいで分かりやすかった。
- 50代：県教委の考え方が、よくわかった。
- 50代：今後共同実施は必然となると思っているが所属地区ではほとんど取り組みがなされていない。（伊万里市のパネラーの方とは認識が異なります。）意識も低い。これらを参考に考えてくれたらと思っている。
- 50代：伊万里地区、県教委の方をパネラー席についていただいたことについてはよかった。
- 50代：コーディネーターの小川会長が、とてもじょうずにコーディネートされたと思う。行政側の考えが、聞けたことはよかった

## ◎ その他

- 20代：報告等に関してですが、資料を読み上げるだけというのは、どうかと思う。
- 20代：大変お忙しいかと思いますが、校長会へのアンケートの実践ととりまとめ、資料提示は、秋の佐事研といわず、電子メールなりで完成しだい送っていただきたく思います。できれば、地区ごとに校長の意見を分けたものを作成していただきたく思います。地区ごとの事情のちがいに、校長の要望も異なってくるかと思いますが。
- 20代：共同実施についてはもっと語ることが多いと感じた。次の佐事研でもこれに関係した講演やディスカッションを希望したい。
- 30代：佐賀市以外の会場で開催しても良いのではないのでしょうか？
- 30代：理事会の選出ですが、会員の数が多い地区は理事の人数を多くしてはどうかと思います（地区割を再検討してほしい）
- 30代：自分勝手な思い込みで、（特に）法規はむずかしいだけで使う事なんてないと嫌っていましたが、それを求められているのなら、勉強する必要、あります。けれど、できれば、佐事研で、基本編から、研修会を組んでもらいたいです。他力本願ですか？この考えって。本当なら、県教委が、求めている人材の育成をすべきだと思いますけど、そんな事はほったらかしでしょ。講師の方の都合が第一ではありますが、旅費については、ほぼ一定額の状況ですし、会場は、西寄りだったり東寄りだったし計画できた方が不公平な気が少ないです。

- 40代：以前、行われた講演として、佐城の中野先生やまき原先生の講演があったが、そのような、今から事務職員として生きていくうえで、ためになる講演を行ってほしい。
- 40代：せっかくの記念講演なのに、睡魔に襲われている方が多く、講師の方に失礼です。記念講演は午前に行い、午後一番に総会行事をもってきた方が良いと思います。
- 40代：大会運営の皆様お疲れさまでした。
- 40代：開会行事をもっと簡略化できないものだろうか？
- 50代：きれい事ではやっていけない（抽象的目的では）やっぱり個人しっかり足元をかためていかないと、全ての場で
- 50代：腰がいたくなりましたね。（4時過ぎると）
- 50代：おつかれ様
- 50代：本日の研究大会の成果（たくさんのヒント）を持ち帰り、心新たに明日からの職務に活かしたい

### 校内支援ソフト～i SCHOOL～が平成17年2月より佐賀市内の小中学校へ導入されました！！

これからの「開かれた学校づくり」においては、校長のリーダーシップの下、教職員相互に連携し協力しながら教員ひとりひとりも学校経営への参画を行うという自覚が必要となってきます。そのためには、学校の教職員同士が円滑なコミュニケーションを図ることが必要となりますが、学校経営を中心とした多くの課題への対処に時間を割かれ、学校経営に関する自由なコミュニケーションがとれない、といった現状を抱えています。

平成16年度に実施された「学校事務診断」では、校長・教頭等の学校管理職が教諭の日程管理を行わなければならない、学校経営に携わるマネジメント時間の創出が必要であるという分析が行われました。そこで佐賀市教育委員会では、平成17年2月より、管理職の学校マネジメント時間の創出による学校経営の質の向上と学校内の伝達業務の効率化、情報共有化のため、校務支援ソフトグループウェア『i SCHOOL』が導入されることとなりました。

「別に困らないからグループウェアソフトまで必要ないのでは」という意見も聴きました。関心度はPCの設置状況やソフトへの理解にも左右されますが、導入後1年は経ちますが、同一校内のネットワークにより、別室にしながら情報の確認ができるという便利さを感じることはできました。

文書収発簿により受け付けられた校外行事や出張が校務日誌へと自動的に連動してくれます。月行事予定表へも反映します。休暇等のサービス表示も登録された氏名にチェックを入れると同様に連動されます。校務日誌は監査対象書類です。管理者の正確な情報表示が必要です。実態に合わせて情報の加除・修正もソフト上で可能なソフトです。もちろん印刷後の手書き追記も可能です。校務支援ソフト『i SCHOOL』は情報漏洩を防止するためのセキュリティ対策も行われています。

校務支援ソフト『i SCHOOL』は、各学校における工夫次第で有効な使い方ができます。また、各学校において『i SCHOOL』を使いこなすうちに、より便利な機能の追加要望があがってくることをふまえ、市教委からも完成版ではなく、各学校の実情に応じて寄せられた要望をもとに、今後機能の修正や追加を行っていく方針とのことです。

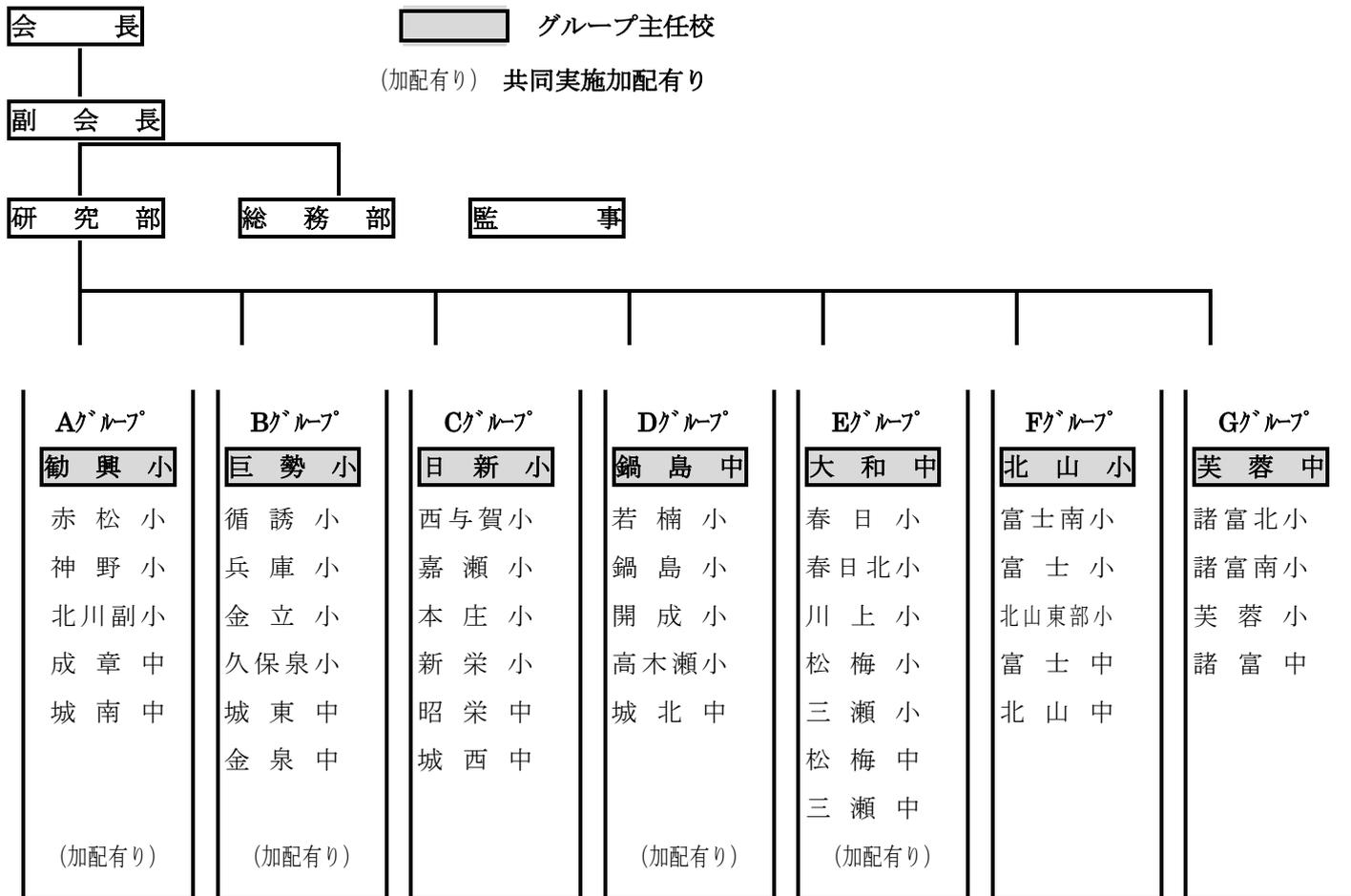
参考文献「校務支援ソフト『i SCHOOL』操作マニュアル」平成17年1月佐賀市教育委員会」

### 佐賀市立小中学校事務職員研究協議会の紹介

佐賀市立小中学校事務職員研究協議会は、学校事務の研究を行い、会員の資質、社会的地位の向上及び親睦をはかり、教育の振興に寄与することを目的とし、目的を達成するために、学校事務の調査研究、研修事業を行っています。

市町村合併に伴い、平成18年度からは共同実施加配4名を含め、会員数は総勢51名となりました。現在は、会長、副会長、研究部長を筆頭に、A～Gの共同実施グループを編成し、グループ主任校を中心に、広義の「学校事務」\*1取り組み、学校として説明責任が果たせるような体制を構築すること、また教職員の事務負担を軽減することにより教授活動を支援し、教育の向上に貢献することを目指して、研究、研修を行っています。

【平成18年度佐賀市立小中学校事務職員研究協議会】組織図



平成18年度は、各共同実施グループごとに学校事務の標準化・効率化を図る重点研究課題等を勘案、実践しながら、全グループに共通する佐賀市立小中学校事務職員研究協議会全体研究・実践テーマを2つ提案しています。

第1のテーマは「学校集金の適正化・標準化・効率化を図るための研究・実践を行う」です。3つのステップ（ステップ1. 校納金の会計処理状況を把握し、支払い事務を事務室で取りまとめて行う ステップ2. 校納金の出納簿を記載し、通帳の管理を事務室で行う ステップ3. 校納金の予算管理を行い、会計報告等保護者への通知書作成を事務室で行う）の実践に伴う研究を共同実施グループで行います。

第2のテーマは、「【学校文書処理・管理の手引き】\*2等に基づく文書処理、管理を行い、標準化・効率化の推進及び定着を図る」です。佐賀市では、佐賀市立小中学校文書取扱要綱において、県費事務職員は文書取扱主任に指名され、定められた文書事務の遂行を求められることから、特に今年度は、必要に応じて、発信文書における「起案」「決裁」の事務処理と前述【学校文書処理・管理の手引き】及び「学校文書分類規準表」\*3に対応した文書ファイル名（簿冊）の推進、定着を目指します。

各テーマに対する取り組みは、これまで旧市、旧町村を問わず、各学校間において様々で、第1テーマ「学校集金～」においては、現在の実情に応じてステップ1からステップ3について、できる限り各校で実践することを奨励しています。

\*1 広義の「学校事務」様々な解釈があると存じますが、ここでは、便宜上平成18年5月1日付『教職員配置に関する調査研究委託事業』事務の共同実施による教職員配置の実践的調査研究事業の実施について（照会）資料 新たな学校事務の業務内容の具体的例示（第20回佐賀県公立小中学校事務研究大会資料43ページ掲載）内容に類似するものと想定しています。

\*2 【学校文書処理・管理の手引き】平成16年10月佐賀市教育委員会より配布された文書処理管理に関する手引き。

\*3 「学校文書分類基準表」平成16年度佐賀市立小中学校事務職員研究協議会において作成。

## おぎ市じむけんは、どげんところげんところよかところ

小城市事務研は平成17年3月1日、小城市誕生に伴い、旧小城郡事務研から名称変更になりました。今年度の異動でも1名しかかわらず、あんまりかわり映えのしないメンバーです。どちらかと言うと「強いもの」がどどんりードしていくスタイルで運営されていますが、一方的ではありません。意欲的な提案がされ、みんなで話し合いの結果決定されるので、みんな文句を言いません。後からついていく者にもアフターケアのあるとてもよい事務研です。

### 事務研の事業内容

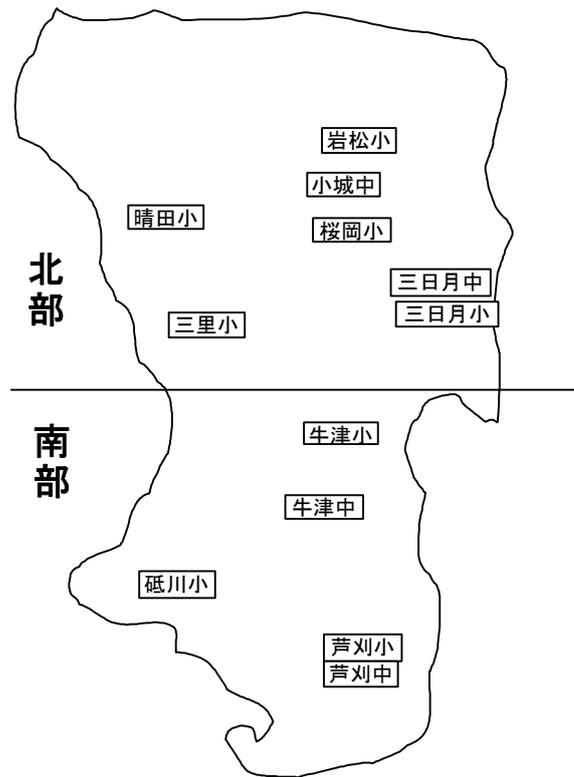
#### 年間テーマ

- 共同実施の研究
- 当面する諸問題への対応
- その他、各人の自主研修の提案

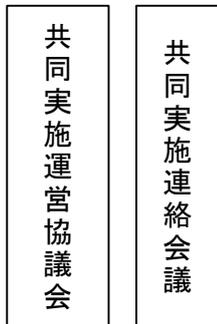
事務研の開催場所を市教委のある庁舎で行い、できるだけ市教委の担当者からの連絡の時間を設け、意思の疎通を図るようにしています。

### 事務の共同実施の状況

北部と南部に分けて共同実施を行っています。加配はありません。



### 組織体制



#### 北部地区(会長 三日月中校長、代表 三日月中事務長)

運営協議会は年3回程度  
 連絡会議は月2回三日月中学校  
 それぞれの事務職員に兼務辞令発令  
 実践概要

- 学校長の行う学校運営全般について補佐できる体制作りを研究
- 危機管理、情報管理についての研究
- 予算や保護者負担経費を含む会計管理・財務のシステム化等について
- 事務の組織化の確立と権限の移譲についての研究

#### 南部地区(会長 芦刈中校長、代表 芦刈中事務長)

運営協議会は年3回程度  
 連絡会議は第2週、第4週木曜日午後 場所は各学校を巡回  
 それぞれの事務職員に兼務辞令発令  
 実践概要

- 危機管理、情報管理について検討
- 予算、保護者負担経費を含む総合会計管理について研究